

平成28年10月17日

平成28年度 危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）・与論の開催について（御案内）

平成28年度 危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）・与論を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

記

趣旨

我が国における消滅の危機にある言語・方言に関する調査研究成果や各地域の取組事例について、広く知っていただくため、「危機的な状況にある言語・方言サミット」を開催します。サミットでは方言の聞き比べや講演等が行われ、文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考え、危機的な状況を改善するきっかけにするものです。今年度は11月13日（日）に鹿児島県与論島での開催です。

*「危機的な状況にある言語・方言」とは、ユネスコが平成21年に発行した“Atlas of the World’s Languages in Danger”で消滅の危機にあるとした8言語・方言（アイヌ語、八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言）及び東日本大震災において危機的な状況が危惧される被災地の方言を指します。

主催

文化庁、鹿児島県、与論町、与論町教育委員会、国立国語研究所、琉球大学

日時

平成28年11月13日（日） 9：00～15：15

場所

与論町総合体育館（砂美地来館）
（鹿児島県大島郡与論町茶花2045）

- 日程**
- 8 : 3 0 受付
 - 9 : 0 0 歓迎セレモニー
 - 9 : 3 0 開会式
 - 9 : 4 5 危機的な状況にある言語・方言の現況
 - ①調査研究の結果報告
 - ②継承のための取組事例報告（豊見城市，与論町）
 - ③協議
 - 1 1 : 2 5 休憩
 - 1 1 : 3 5 危機的な状況にある言語・方言の聞き比べ
 - 1 2 : 2 0 休憩
 - 1 3 : 1 0 危機的な状況にある言語・方言による語り
 - ①アイヌ語による語り
 - ②国頭方言（与論方言）による語り
 - 1 3 : 4 5 与論町の取組成果（与論小学校）
 - 1 4 : 0 0 講演「^わ吾きゃシマぬウタ ^わ吾きゃシマぬユムタ」
（私のシマの唄，私のシマの言葉）
講演者：朝崎郁恵（奄美島唄唄者）
 - 1 5 : 1 0 閉会式
 - 1 5 : 1 5 終了

※都合により日程変更等をする場合があります。

参加者 消滅の危機にある言語や方言に関心のある方

参加申込み 参加申込不要。参加費無料。

<担当> 文化庁文化部国語課
国語調査官 鈴木
電話：03-5253-4111（内線 2841）
FAX：03-6734-3818
E-Mail：kokugo@bunka.go.jp

【講演講師プロフィール】

あさ さき いく え
朝 崎 郁 恵

1935年11月11日

鹿児島県大島郡瀬戸内町

加計呂麻(カケロマ)島・花富生まれ。



奄美諸島で古くから唄い継がれてきた奄美島唄の唄者。

島唄の研究に情熱を傾けた父・辰怒（たつじょ）の影響を受け、また、不世出の唄者と謳われる福島幸義に師事し、10代にして天才唄者といわれた天性の素質を磨きかける。千年、あるいはそれ以上前から唄われてきたともいわれる奄美島唄の伝統を守り、その魂を揺さぶる声、深い言霊は、世代や人種を超えて多くの人々に感動を届けている。

ニューヨーク・カーネギーホール、ロサンゼルス、キューバなどの海外公演、国内では国立劇場10年連続公演等、数々の大舞台を踏んできたが、1997年に発表した初のピアノと奄美島唄のコラボレーションCD「海美(あまみ)」が、ラジオで細野晴臣氏により紹介され、世に広く注目を浴びることとなる。

2002年、「うたばうたゆん」67歳でメジャーデビュー。以降「うたあしいび」（2003年）、「おぼくり」（2005年）、「シマユムタ」（2006年）、「おぼくり～ええうみ」（2008年）など作品を次々に発表、NHK大河ドラマ「篤姫」の音楽を担当した吉俣良、坂本龍一、UA、ゴンチチ、上妻宏光、姫神など数多くのアーティストと共演してきた。

2009年、NHK大河ドラマ「篤姫」劇中曲（作曲：吉俣良）に、初めて共通語による歌詞で歌う「阿母（あんま）」（作詞：UA）を含むアルバムを発表。

2010年、「13人のグランドマザー」第8回世界会議に参加。

2011年4月より放送中の、NHK BSプレミアム番組「新日本風土記」のテーマ曲「あはがり」を唄う。

また、南海日々新聞社から「ピアノと島唄のコラボレーションという新しい手法で島唄を知らない人々にも唄の深みと『奄美』を広めた」功績により第35回南海文化賞を贈られる。

2012年の「かなしゃ 愛のうた」、2014年の「よいすら節」に続き、2016年8月「南ぬ風（ふえいぬぶるーす）」を発表。

ピアノのみならず様々な民族楽器、ミュージシャンとのコラボレーションで島唄を唄い、奄美島唄と自身の可能性を広げ、その世界を深め続けている。